

【待合室、ちいさな家族の物語】

『17年目のゴロゴロが、教えてくれたこと』

「お待ちせしました！ 佐藤さん。」

診察室に迎え入れた佐藤さんと、17歳のミミちゃん。人間なら80歳をゆうに超える立派なご長寿です。血液検査の数値を見れば、内臓の衰えは隠せません。しかし、私が診るべきはモニターに映る数字だけではありません。

ミミちゃんの頭をなでる佐藤さんの表情が、強張（こわば）っていることに、私は気づかずにはいられませんでした。

17年という、あまりに長い時間を共に歩んできたパートナー。

その「終わり」が近づいてきていることを感じ、一人になる恐怖と戦っている佐藤さんの言いようのない孤独。その『言葉にならない叫び』を聴き取ることも、私の大事な仕事です。

「先生、この子は……まだ大丈夫でしょうか」

そう問いかける佐藤さんに、私は……